

# 世界遺産と天皇陵古墳を問う

今尾文昭・高木博志編

2016年12月刊行

▶四六判・300頁／定価：本体 2,300円（税別） ISBN978-4-7842-1872-1

## 仁徳天皇陵か、大山古墳か——

日本最大の前方後円墳を、考古学者・森浩一は「大山古墳」と呼ぶべしといい、古墳を管理する宮内庁は「百舌鳥耳原中陵」と呼び、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を目指す関係者などは「仁徳天皇陵古墳」と呼ぶ。

それぞれがこのような主張する背景にはいったい何があるのだろうか？そして私たちは天皇陵をどう呼ぶべきなのか？

世界文化遺産登録に向けた動きのなかで浮かびあがる天皇陵をめぐる諸問題——考古学の成果との齟齬、天皇陵指定の経緯、陵墓公開運動、社会への広がり（ウェブ・教科書・報道）などを多角的に取りあげ、これからの天皇陵のあり方を考える。



∞ 予定内容目次 ∞

序

### I 呼称問題

天皇陵古墳をどのように呼ぶか  
—森浩一の軌跡と先駆的役割—  
百舌鳥三陵は如何に呼ばれてきたか

今尾文昭  
（関西大学非常勤講師）

久世仁士  
（文化財保存全国協議会常任委員）

### II 歴史のなかの天皇陵古墳

古市・百舌鳥古墳群の王陵の被葬者  
王統譜の成立と陵墓

岸本直文  
（大阪市立大学教授）

仁藤敦史  
（国立歴史民俗博物館教授）

だれが陵墓を決めたのか？  
—幕末・明治期の陵墓考証の実態—

上田長生  
（金沢大学准教授）

大正・昭和戦前期の学問と陵墓問題

高木博志  
（京都大学人文科学研究所教授）

### III 現代と天皇陵古墳問題

陵墓と文化財「公開」の現在  
—デジタル時代の文化財情報の公開の姿とは—（国立歴史民俗博物館准教授）

後藤 真  
（岡山大学教授）

新納 泉  
（茨城大学名誉教授、土浦市立博物館館長）

陵墓公開運動と今後のあり方

茂木雅博  
（朝日新聞編集委員）

世界遺産は陵墓を「開かせる」か  
—報道の立場から—

今井邦彦  
（朝日新聞編集委員）

まとめ

百舌鳥・古市古墳群の主要古墳

英文要旨

索引（人名／事項）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009  
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		（京都 取引コード 3402）	
冊数	冊	世界遺産と天皇陵古墳を問う	定価	本体2,300円（税別）	ISBN978-4-7842-1872-1
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

本書HPのQRコード



**歴史のなかの天皇陵**

高木博志・山田邦和編

各時代に陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆者による座談会を収録。

▶A5判・340頁／本体2,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1514-0

**平安王朝の葬送 死・入棺・埋骨**

龐谷寿著

日本古代撰・院政期の天皇(桓武〜安徳天皇)と貴族の葬送儀礼における具体相をさぐり、その相違点を考察する。また、平安王朝の死、入棺、葬送、埋骨の様相を通覧することから、皇権の在り方を考える。土葬から火葬への変遷が一覧できる表を付載。

▶A6判・304頁／本体3,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1832-5

**幕末維新期の陵墓と社会**

上田長生著

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目する。社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

▶A5判・400頁／本体6,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1604-8

**近代古墳保存行政の研究**

尾谷雅比古著

近代日本の文化財保存行政について古墳を素材としてとりあげ、その背景にある国家の理念とそれに基づく施策、実施される行政行為の歴史の変遷をあとづける。行政と対峙する地域・民衆の動きにも目を向けて文化財保存行政を論じる。巻末に、国・地方の歴史的行政資料や行政文書を抽出した関係史料集を収録。

▶A5判・368頁／本体7,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1734-2

**神話・伝承学への招待**

斎藤英喜編

桃太郎は、なぜ桃から生まれてくるのだろうか——その答えは『古事記』のなかにあった。これまで別々のジャンルで扱われてきた「神話」と「伝説」「昔話」について、総合的・学問的に研究する「神話・伝承学」。本書は11の章と7つのコラムにより、魅力ある「神話・伝承学」の世界へいざなう、格好の入門書。

▶A5判・266頁／本体2,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1813-4

**変容する聖地 伊勢**

ジョン・フリーン編

古代から変わることなく受け継がれてきた聖域というイメージで語られる伊勢神宮が、移りかわる時代のなかで大きく変貌を遂げてきたことを、国内外の第一線の研究者が論じた16編。古代から近・現代にわたる伊勢神宮の変容の歴史をひもとく。

▶A5判・340頁／本体2,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1836-3

**※大津京跡の研究**

林博通著

天智天皇造宮の大津宮の所在地については、多くの学説と論争があったが、1974年の著者による遺構発見以後、数十カ所の発掘が行われ、構造復原の作業が進められた。永年にわたる大津京論争に決着をつける、初の包括的な研究集成。口絵(8頁25点の写真)および本文収録図版182点。

▶B5判・280頁／本体8,800円(税別)

ISBN4-7842-1073-3

**日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容**

堀内明博著

永年、平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。掲載図版多数。

▶B5判・514頁／本体15,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1457-0

**古代日本の衣服と交通 装う王権 つなぐ道**

武田佐知子著

衣服が着用される儀礼の空間としての都と地方が、連続した人工的空間としての道路で結ばれていること、その道路の国家と公民における意味、そこでの衣服の機能などを考察の対象とした諸論考を冒頭に配し、古代の中国や朝鮮半島の衣服を継受しながら形成されてきた日本列島の衣服制を見通す。

▶A5判・420頁／本体6,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1723-6

**日本古代国家の農民規範と地域社会**

坂江涉著

「農民規範」と「浮浪人」をキーワードに国家が地域社会に期待した農民像、さらには律令国家の社会統治原理を明らかにする。その一方、風土記や記紀にみえる神話や伝承、民間歌謡を素材として村落における農民結合のあり方、族長層と農民との支配一庇護関係を論じ、国家と地域社会の関係を双方の視点から分析する。

▶A5判・464頁／本体9,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1787-8

**大地へのまなざし 歴史地理学の散歩道**

金田章裕著

古代日本の条里制から世界地図まで、歴史地理学のおもしろさを紹介するとともに、グローバルな研究を展開してきた著者が折りに触れて書き継いできた諸論稿をまとめる。【内容】道行く人びと／景観史への道程—「条里制」研究から何が見えるか／町と村の発達—宇治と巨椋池周辺／英国の世界認識と世界覇権／世界の大地への関心 ほか

▶A5判・322頁／本体4,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1405-1

**東アジアのなかの日本**

上田正昭著

折口民俗学を継承する著者の昨今の論文や講演録などを選んで収録。日本列島の歴史や文化の実像をよりあざやかにするために、海を媒介とするアジアとのかかわり、とりわけ東アジアとの関係を重要なテーマとしてきた著者がまとめた最新の一書。

▶A6判・376頁／本体2,400円(税別)

ISBN978-4-7842-1479-2

**※蓬萊山と扶桑樹 日本文化の古層の探究**

岡本健一著

「蓬萊山」と「扶桑樹」は古墳時代を解き明かすうえで二大キーワードであるはずが、なぜか古代史や考古学の分野では、長らく見過ごされてきた。20年前より「前方後円墳=蓬萊山起源」説を提唱してきた、元新聞記者でもある著者の研究集大成。

▶A5判・442頁／本体5,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1400-6

**古文化財の科学**

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査、装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・柴山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。

▶A5判・380頁／本体6,300円(税別)

ISBN4-7842-0482-2

**中国南北朝隋唐陶俑の研究**

小林仁著

豊富な実物調査に基づいて、膨大な数の資料を造形的特質、様式の変遷、地域性などによって整理し、豊富な図版とともに美術史・陶磁史的視点からさまざまな論点を提示。分裂から統一へとダイナミックに転換する時代のなかで生じた変化と連続性を跡づけ、新たな陶俑研究の確立を目指す。

▶B5判・438頁／本体13,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1790-8

**高句麗壁画古墳と東アジア**

門田誠一著

高句麗の人々が営んだ古墳は独特の形状と内容を持ち、さまざまな視座からの研究が行われてきた。本書では壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察する。高句麗社会と文化の一端を復元し、歴史的時空の再構築をめざす労作。

▶A5判・448頁／本体8,600円(税別)

ISBN978-4-7842-1546-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。